

浅海増殖試験 キジハタ生態調査

石田健次

キジハタの種苗生産技術および放流技術開発の基礎資料とするために、生活史の解明および資源変動等の調査を行っている。しかし、本種は漁獲量が少なく高級魚として珍重されていることもあって資料の収集が困難で十分ではないが、これまでに得られた結果について述べる。

方 法

用いた材料は、1994年から1995年の7月から12月の間に隠岐海峡を漁場とする平田市佐香漁協所属の延べ縄漁で漁獲された全長278～494mmのキジハタ25個体である。標本個体（♂：5個体，♀：20個体）は、実験室で全長(TLmm)、体重(BWg)、生殖腺重量(GWg)を測定した。また、体長(BLmm)は全長と体長の関係式 $BL=0.784TL+7.813$ から¹⁾、生殖腺指数は $GW \times 100/BW$ の式から求めた。

結果と考察

体長と体重 体長(BLmm)226～395mm範囲の体長と体重(BWg)の関係を図-1に示した。関係式は $BW=4.0 \times 10^{-6} \cdot BL^{3.3476}$ が求められ、体長250mmで体重が426g、300mmで784g、350mmで1314g、400mmで2055gであり、体重が1kgを超える個体は体長で323mm（全長401mm）、2kgを超える個体は体長で397mm（全長499mm）に達すると算出された。

生殖腺指数の変動 図-2に体長と生殖腺指数の関係を示した。生殖腺指数は雄が体長232～361mmの範囲で0.10～0.50、雌が体長226～395mmの範囲で0.12～4.81と雌が高い値を示した。図-3に8月を除く7～12月までの月別生殖腺指数を示した。個体数は雌雄ともに少ないが、雄は0.50以下、雌は7月が2.31～4.81(平均3.23)、9月が0.71、10月が0.42～0.90(平均0.63)、11月が0.22～0.30(平均0.26)、12月が0.12～0.57(平均0.32)で最も高い値が7月の4.81で雄の約10倍の値を示し、12月まで漸次低下する傾向がみられた。瀬戸内海におけるキジハタの産卵期の成熟雌の生殖腺指数は約2～10と高く、また雄は成熟のピーク時でも1前後と低くマハタ属の雄に共通する特徴である²⁾ことから、当海域におけるキジハタの産卵期も7月前後の夏季であろうと思われた。

本種は生態的に不明な点が多く、栽培魚種としての適性などについて、さらに標本を集めて明らかにしていく必要がある。

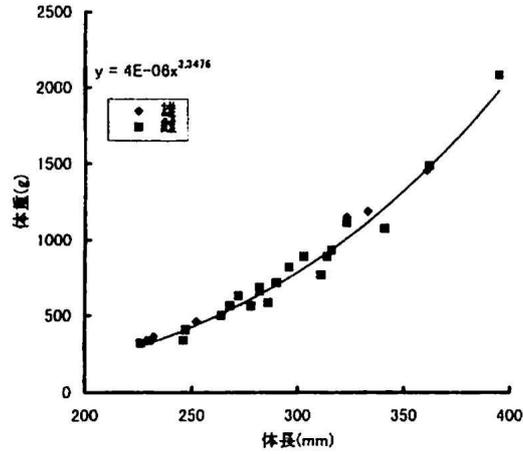


図1 キジハタの体長と体重

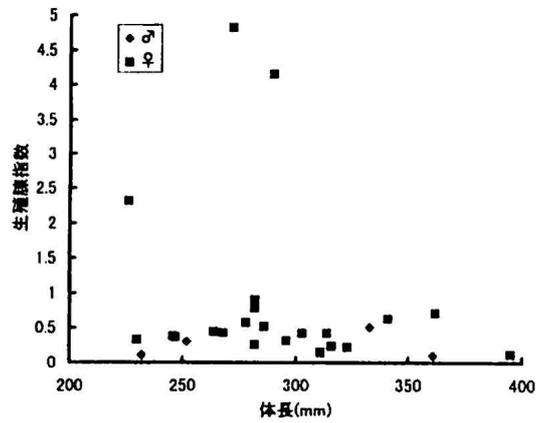


図2 体長と生殖腺指数

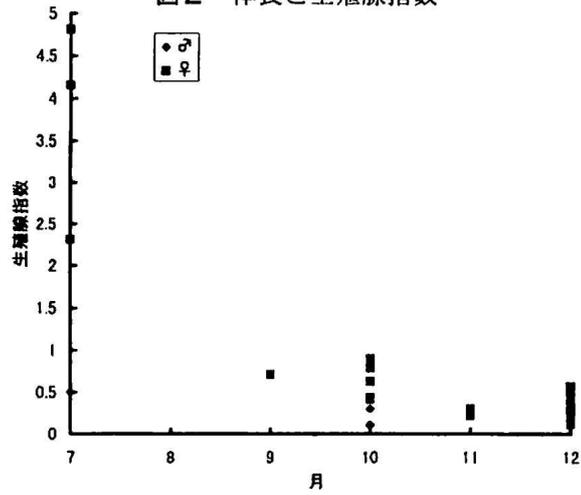


図3 月別生殖腺指数

文 献

- 1) 松村新作・福田富男：岡山水試報 1 27-32, 1986.
- 2) 田中秀樹・広瀬慶二・野上欣也・服部圭太・石橋矩久：養殖研報 17 1-15, 1990.